



おなが まさひろ  
小永 正裕 議員

## 基幹産業

# カツオ一本釣りと活餌等の支援を 休日などの変更は現状では困難

**問** 一次産業のうち、カツオの一本釣り漁の件で平成28年からこれ迄の佐賀漁港の年度別水揚量と金額を問う。

近年、様々な原因が重なり魚価の低迷やカツオの不漁が続く中、今年度は例年と異なり今でも活餌の搬入が増加している。これは大量にカツオが黒潮牧場に居付いている証であるが、漁業者は流通面でも苦慮している。市場の週休2日制を1日に変更できないか。生き餌も安価で安定的な確保を要する。漁業組合も体力の弱体化が感じられるし、何らかの形で行政からの支援が必要ではないか。

**答** 今西海洋森林課長 佐賀漁港のカツオ水揚げ量及びその金額は、平成28年度310トンで2億1663万円、平成29年度365トンで2億650万円、平成30年度242トンで8910万円、令和元年度211トンで1億578万円、令和2

年度571トンで2億1392万円となる。平成30年度及び令和元年度の水揚げ額の減少は、全国的なアニサキスの風評被害によるもの。令和3年度は未だ途中だが、4月～7月の4か月間の合計実績で水揚げ量が1045トンで1億576万円になる。

また、流通などの件は県漁協佐賀支所との聞き取りで、佐賀市場の休日は、関係者間でも様々な考え方や見方があるが、漁業者、仲買や流通業者も含め、あらゆる関係者の合意の下に決定しており、休日1日のことでも非常に重要な問題になる。

今回、漁獲等にかかわらず、佐賀市場の休日の変更等については、現状では非常に困難だとのお返事だった。

今回、漁獲等にかかわらず、佐賀市場の休日の変更等については、現状では非常に困難だとのお返事だった。

**問** 農業関係の件について、現在の状況と今後の課題、目標とするものは何か、後継者の育成について、現況と将来の見込みを問う。

また、多くの優良農地が高規格道路のルートに係り消滅の危険にあるが、どう考えるか。



出港を待つ一本釣りカツオ船

**答** 川村 農業振興課長 黒潮町農業公社を平成25年に設立し、担い手支援事業を活用して新規就農研修生、研修受け入れ農家、併せて親元就農への支援も行っている。

耕作条件の良い優良農地は、経営者が変わる段階で次世代の新規就農者に引き継ぎ、有効活用できるよう農地流動化を考えている。

**答** 松本町長

課長答弁に続いて、高速道路の完成は、広域自治体にとって必要な道路と考え、選挙の最上位の公約とした。

ただし、道路用地となる優良農地の件については、農業は町の基幹産業であり、最も大切な産業であることは認識している。様々な課題はあるが、打開策の良い方法はないか、関係者の方々と丁寧な話し合いを続ける。